

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 国立大学法人福井大学大学院福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科
コラボ研修プログラム	事業名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 「探究的な学び」を探究する 新たな「児童・生徒と教師の学び」を支えるコミュニティの展開
支援事業報告書	研修等名：【NITS・福井大学連合教職大学院コラボ研修】 「探究的な学び」を探究する 新たな「児童・生徒と教師の学び」を支えるコミュニティの展開
	開催日時：令和6年1月27日 10時～15時30分 開催場所：岐阜聖徳学園大学（岐阜県岐阜市柳津町高桑西一丁目1番地） 参加人数：（総数96人）教育委員会8人、大学教職員27人、幼稚園教職員2人、小中義教職員24人、高校教職員4人、連合教職大学院生7人、教育学部生17人、中学生4人、高校生3人

内容： ※全体発表の内容をテブ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

1. 教育改革フォーラム（午前の報告会）

【報告1：福井大学教育学部附属義務教育学校 校長 牧田秀昭 氏】

「協働・探究的な授業のカリキュラム構成とそれを支える教師の指導観の転換」というテーマで、問題解決型学習について中学校数学1次関数の事例をもとに「自由度」「学び直し」の保証や「臨機応変な対応」の大切さを学んだ。これまでの先入観に囚われず指導観の転換を問い続ける教師文化の構築こそが重要である。

【報告2：岐阜県郡上市立郡南中学校 校長 三島晃陽 氏】

「持続可能な社会の創り手の育成」というテーマで、SDGsと長良川を生かした総合的な学習の時間を中核に置いた教育課程の創造の在り方を学んだ。校長として赴任以来、「社会を変革できる人」の育成に向けて、フィールドワークや地域人材活用を重視し、教育課程プロジェクトチームを立ち上げ、改善を実践した。

【報告3：福井大学大学院連合教職開発研究科 准教授 遠藤貴広 氏】

「協働研究の文化を支える実践コミュニティの重要構造」というテーマで、福井県の高等学校における総合的な学習の時間の「評価」にかかわる事例をもとにしながら、学習評価の「妥当性」「信頼性」を高めるための「モデレーション」の大切さを学んだ。新しい時代の教師のために、専門職としての協働研究こそさらに探究したい。

【コメント】

以上の報告を受けて、岐阜県教育委員会高校教育課長 中村有希氏（文科省出向）、岐阜聖徳学園大学教育学部教授 龍崎忠氏からそれぞれコメントを得た。

2. ラウンドテーブル（ラウンドT）（午後：12グループ）（具体的な様子は右に添付した。）

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

アンケート（4件法）とコメント（自由記述）集計から午前・午後とも、探究的な学びについて新たな気付きが生まれ、「学びたい」という意欲が明確になった。（有効回答数53名）

(1) 午前の報告会 「探究的な学びが深まったか」 非常に深まった 81%
「さらに学びたいか」 非常に学びたい 85%

コメント抜粋「教師の学び続ける姿勢と子供の成長を見届けたいという想いの大切さを学んだ。」「教師も子供と一緒に学ぶことが、教育環境を良くすること、子供を想うことが探究につながっているのだと学んだ。」

(2) 午後のラウンドT 「新たな経験ができたか」 非常にできた 85%
「さらに学びたいか」 非常に学びたい 92%

コメント抜粋「一つの実践を異なる立場の多様な視点から語り合うことで、新たな気付きをえるとともに、大切な視点が見えてくることを実感した。」「語り合うことの大切さを学んだ。」

アイデアや工夫したこと： ※3～5つ程度の箇条書きしてください。

- 多様性を重視：教育委員会はもちろん、幼・小・中・義・高といった様々な校種の教員や、中学生・高校生・大学生・大学院生が参加するなど、異なった立場同士が交流できる場を意図的に設定した。
- グループ編成の工夫：授業改革を主眼とする中学生、探究に挑戦する高校生と高校教員、自治体で探究を展開する市教委など、それぞれの良さと意欲が引き出されるようメンバーとファシリテーターを配置した。
- 課題意識の連続性とコンパクトな運営を大切に：午前のフォーラムを受けて午後のラウンドテーブルに入れるよう、プログラムの連続性を重視するとともに、午後の会場を隣の部屋で設定して動き易さを大切にした。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。



多様性を重視し、受付として参画した学部生



熱が入るラウンドテーブル全体の様子

全12テーブル
(66名参加)



教育フォーラム（午前の報告会）趣旨説明を行う寺田副研究科長



探究を重視する幼稚園での実践について熱心に語り合うグループ



報告①
牧田校長の教科・数学の探究の実践に聞き入る参加者



中高生が自分たちの実践している探究について共に交流し合うグループ



報告②
総合の探究を熱く語る三島校長の話に聞き入る参加者



高校生が語る探究を受け止めて語り合う中高の教員と県教育委員会の課長



報告③
遠藤准教授から実践的コミュニティの価値に学ぶ参加者



義務教育学校における探究をどう展開するのか語る校長や現職教員